

中国の産業集積：形成過程，構造，企業家像

丸 川 知 雄

(東京大学社会科学研究所助教授)

中国の産業集積は浙江村や温州村などの地域に見られるように特徴的なものである。まず、「産業集中はなぜ生じるのか」ということについて、その理由として、輸送費、企業・工場レベルでの規模の経済性そして、規模の経済性のない企業が多数集積するような産業集積があげられる。また、産業集積を成り立たせる外部経済に関しては、マーシャルや日本国内の学説に依拠した次の5つの点、①技術や需要に関する情報の伝播、②多様な生産機能を持つ企業が集まり、組み合わせられることによって、様々な量と内容の需要に対応が可能、③共通の中間財を需要する企業が集まることで中間財生産における規模の経済が働く、④専門的人材が集まってきて人材が確保しやすくなる、⑤取引の繰り返しによる取引費用の削減、があげられる。

次に、産業集積の発生→発展→再編→衰退という産業集積のライフサイクルについての仮説は、上記の5つの点と関連づけられる。すなわち、発生の段階では①が主に働く。発展の段階では、①～⑤のすべて(ないしは一部)がはたらく。また、産業集積が進み、絶えず外部からの挑戦を受けようになると、規模の経済性のある大企業の登場や新興国が勃興したり、産業集積の中から有力企業が誕生したりするなどの再編が惹起される。そして、外部からの集積に絶えられなくなり利益率が低下すると、人材の枯渇、企業数減少により②、③、④が働かなくなる。企業が1社参入するごとに集積地の競争力は強くなるが、1社でも抜ければ周りにも影響を及ぼし、集積の力は弱まっていく。

具体的事例に関して、紹興の産業集積と温州の産業集積のケースが紹介された。紹興は、化繊繊維生産で中国全体の25%を占めるが、その発展段階について、3つの段階に分けて分析が行われ、産業集積の再編の段階にあり、景気は下降気味であるという構造の特徴がある。また、将来に対する見通しは立っていない。温州に関しても、同様の方法で分析が行われ、その構造の特徴は、紹興と比べて非常に多様性に富んでいること、派生的な形で産業が発展してきている。

活発な企業が特徴である温州の起業家たちに関して、どのような企業家像が描けるかは、その経歴から、学校からではなく、周囲の家内工業や国有企業が技術獲得のチャンネルになっており、起業後の経験で市場知識を獲得し、最終的には地元で工場を経営して成功するパターンが多いと

いうようになっている。

最後に、紹興と温州の発展要因の違いに関しては、紹興については地元政府がその起爆剤になり、温州は企業家精神に満ち溢れた地元の人々によって産業集積が形成されてきたのである。

(文責：柳下正和)